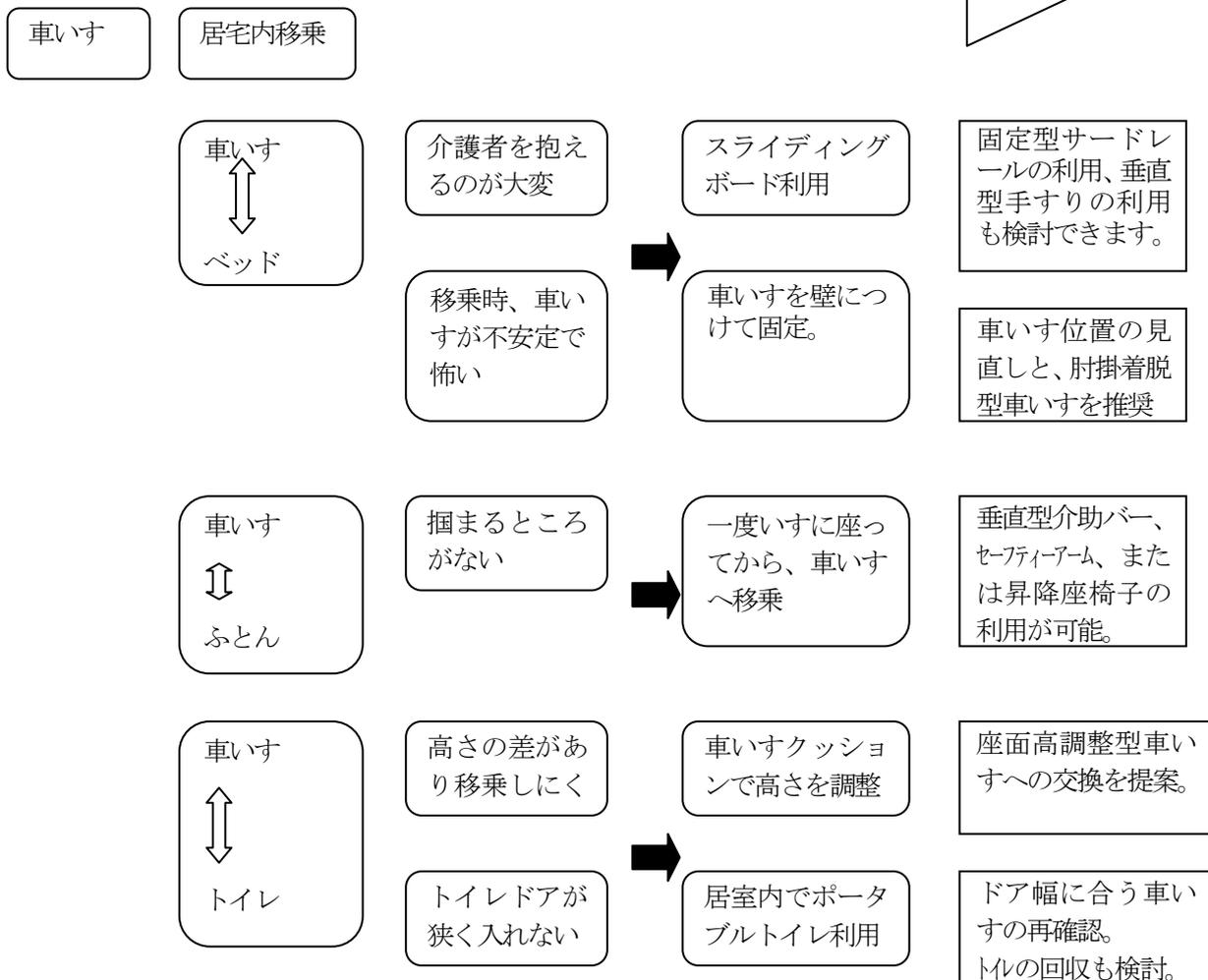
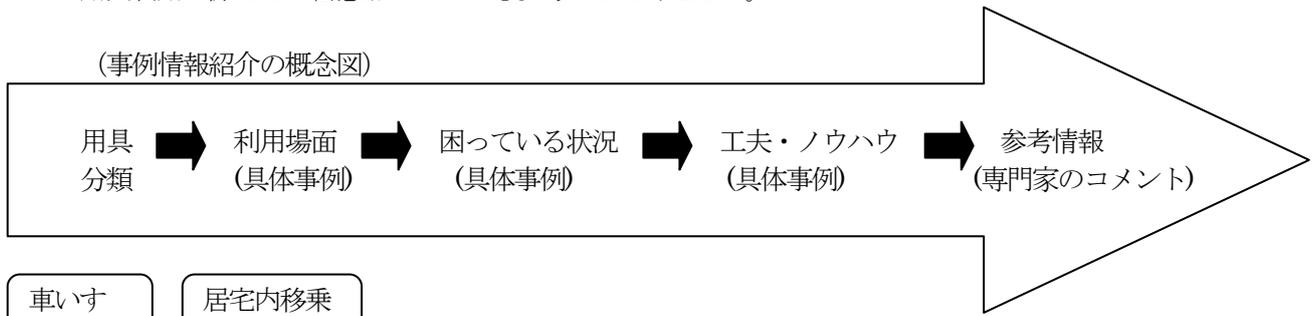


◆事例紹介の流れ

以下の事例集では、個々の事例について以下のような順番で情報を整理しています。用具ごとの利用場面の整理、あるいは困っている状況から、ご自身のケースで参考にすべき事例を探してみてください。

また、この事例集では、うまく利用した事例だけでなく、あまりうまくいかなかった事例も「教訓事例」として掲載しています。それぞれに専門職による参考情報を付け加えていますので、福祉用具利用に際しての留意点についても参考にしてください。

(事例情報紹介の概念図)



## 2. 福祉用具有効活用のための事例集

※表中で網掛けをしてある事例は、あまりうまくいかなかった教訓事例です。そうならないための参考にしてください。

<b>車いす《居宅内での移乗》</b>			
<b>利用場面</b>	<b>困っている状況</b>	<b>解決のためになされた工夫と結果</b>	<b>参考情報</b>
<b>ベッド⇄車いす</b>	移乗のときに本人を抱えるのが大変で落としそうです。本人も恐がっています。	スライディングボードをレンタルしました。最初は戸惑いましたが、大分楽になりました。	こうしたケースでは、スライディングボードだけでなく、固定型サイドレールの使用及び垂直型手摺り(レンタル)の使用も検討してみてください。
<b>ふとん⇄車いす</b>	脇の下に腫れ物が出来ており、普通の移乗方法ができなかったため、移動用リフトを使用しましたが、一人では操作が困難でした。スライドボードも使ってみました。支えがなければ腰掛けていられないので、これもまたうまくいきませんでした。	しっかり織ってあるバスタオルを使って二人で両側から持ち上げて移乗しました。脇の下の腫れ物にもさわらずうまくいきます。本人も楽に移乗できていると思います。(言葉が話せないので、本当のところわかりませんが)	リフト又はスライディングボードの機種選択し、使用法について介護福祉士、看護師など技術と経験のある専門職の指導を受けると、もっとスムーズで安全な移乗が可能になります。
<b>車いす⇄トイレ</b>	高さの差があり、移動が不便です。狭くて、車いすが横付けできません。	人力で移動しなければならず、トイレの間口を広くして、車いすが横につけられるようにしました。横に移動させるだけなので、労力は半減しました。	間口を広くしただけだけでなく、状況によってはスライディングボードやリフトの活用による対応が効果的な場合があります。また、トイレの中に手摺を付ける事によって移動動作が軽減する事もあります。専門職にまずはご相談下さい。
	トイレのドアの幅やトイレ内も狭いため、ドアの外まで車いすとなります。よってトイレへ行く回数が減少しました。	ポータブルトイレを使用(時々)するようにしました。車いすからポータブルトイレへは、本人も嫌がらずに行動をしてくれます(介助あり)。	トイレのドア幅に合う車いすがないか再度選定をしてみてください。ポータブルトイレに車いすで介助者ありで移動をおこなっているのであれば、日中は車いすでトイレまで移動し、トイレのドアから介助をしてもらってトイレでの排泄が可能だと思います。また、トイレを改修する方法もありますが、困難な場合は、ポータブルトイレの活用が最適です。座位保持に難がある方には背もたれや肘掛けがついているものを選びましょう。また、立ち上がり難がある場合、座面昇降式のものも有効な方もいらっしゃいます。
	便座の高さと車いすの座面の高さが大幅に異なるため、トイレまで行けても便座に移れません。	トイレと同じ高さの車いすを選び、横移動を行おうとしましたが、レンタルでは適切な高さ、及び跳ね上げ式の車いすが見つからず困りました。クッションで高さを調整しました。	座面高さの調整できる車いすや、肘掛の着脱または跳ね上げのできる車いすがあります。より安全な移乗のために、交換することをお勧めします。福祉用具事業者によく相談してみてください。
<b>車いす⇄シャワーチェア</b>	浴室入り口に段差があるので大変です。	シャワーキャリーに直接移乗しヘルパーの介助で、そのまま段差を乗り越えて浴室へ入れてもらいます。(公営集合住宅なので、段差解消工事ができない)ヘルパーも大分楽になったとのことでした。	住宅改修で対応できない場合、特注の「すのこ」の設置で段差の解消を致しましょう。(高さ調整ができる「すのこ」も有ります。)但し、浴槽縁がその分低くなる形になってしまうので、浴槽への移乗に難がでる場合が有ります。その面での身体能力や介助能力の確認をして下さい。
<b>移乗全般</b>	ブレーキ棒が少し短く、手が届きにくいです(左側)。	料理用ラップの芯をブレーキ棒に差し込んで延長させたところ、健常な側の右上肢でのブレーキがかけやすくなりました。	機種にもよりますが、一般的には延長棒を準備している所が存在する筈です。用具の揃えの充実した福祉用具事業者への再検討も方法です。
	バリアフリーに床変更しているのがあまり困っていることはありませんが、車いすから車いすへの移乗の時、たまに怖いことがあります。	車いすが逃げないよう、壁につけて移乗してみたところ、安定しています。	移乗時に怖い事が有るということですが、移乗の際に車いすとの位置・離間は適切なのか見直す必要があります。また、身体能力によりますが、両方の車いすが肘掛着脱型の車いすを準備できれば、トランファーボードの活用で対応出来るように考えられます。但し、使い方については専門家から適切な指導を受けて下さい。